

KIICHIRO OGAWA EXHIBITION

小川 貴一郎展

GURUGURU “eye am watching you”

■■ 4つの見どころ ■■



■01 作品展示コーナー

SMサイズからF120号超の大作まで約100点を展示。絵画だけでなく、監禁芸術（コロナ禍の外出禁止期間中、自らを監禁し1日1作品を制作し続けた行為）作品の一部や、小川の手によってペイントされたバッグ等の展示も行う。

■02 Asile Flottant復活プロジェクト 特設コーナー

第一次世界大戦後のパリ市内に溢れる戦争難民を救うべく、ル・コルビュジエにより設計されたコンクリート製の難民救済船「Asile Flottant」。65年にわたり、人々の絶望を希望に変えていった歴史的建造物は、日本人建築家前川國男が関わっていた。100年以上経った今も、文化財としてセーヌ川に浮かぶが、2018年のセーヌ川増水により水没。「日仏文化交流の象徴とも言えるこの船を復活させなくてはならない」と立ち上がった建築家遠藤秀平率いる日本建築設計学会の不撓不屈の物語を紹介。船内で制作された作品は必見。更に遠藤秀平氏と小川 貴一郎のトークショーも開催。

Asile Flottant復活プロジェクトトークショー：予約不要
2024年8月18日(日) 午後2時～午後3時

■03 ライブペインティング

小川貴一郎の真骨頂でもあるライブペインティング。
わずか15分ほどで100号サイズ大に描かれていく様子に息を呑む。
日本での大規模な公開ライブペインティングは渡仏後初となる。

ライブペインティング：予約不要
2024年8月17日(土) 午後3時～午後3時15分

■04 アトリエコーナー

会場内にアトリエを設置。実際の制作風景なども公開。どのように制作されるかだけでなく、どんな画材や道具が使われているかなど、違った視点でアーティストを見ることができる。

GURU-Goku
グルグル

日本語で「物が続いて回る様。物を幾重にも巻きつける様。」を意味する。
小川貴一郎の代表的な作風の一つに、何層もの円が多く見られる。
彼はそれらを作品に触れずに描いている。作品に触れず円を描く様子から、「空気に描く」と表現される。
彼が人生において最も大切にしている言葉が「邂逅encounter」であるように、無意識の中の潜在的な自分に出
会おうとする腕きが、幾重にも重なる不思議な空間・宇宙となり、見る者を引き込む。

小川 貴一郎 KIICHIRO OGAWA

1970年大阪生まれ。6歳の頃、ロンドンのパンク・ロッカーが着るレザージャケットの背中に描かれた骸骨に強烈な影響を受け、洋服に絵を描き始めたのが芸術との出会い。20年以上建築の世界に従事した後アーティストとして独立。現在は現代美術の画家として活動。代表的な作風に、何層にも重なる円相
「GURUGURU」があげられる。カミソリのようにはりつけた空気の中、作品に触れず一氣呵成に描きあげる様子から、その姿は「空気に描く」と表現される。2018年イタリアのメゾンブランドFENDIのPEEKABOO BAGの誕生10周年を祝うプロジェクトにおいて、サビネ・マルセリス、オスカー・ワン、テオ・ヤン、クリス・ウォルストンと共に世界の5人のアーティストに選ばれ、自身でカスタマイズした世界にたった一つのPEEKABOOをマイアミで発表。2020年、Passeport talent（才能ビザ）を取得し渡仏。現在はヨーロッパでの活動を主軸に、パリにて制作活動を行う。作品そのものよりもその周辺に起こる現象が結果として作品となるアーティスト。生きる事自体がアートであり、誰もがアーティストであり、人生を謳歌することの素晴らしさを一人でも多くの人に伝えたいと日々考えている。著書に「監禁芸術」がある。

Hankyu

阪急うめだ本店

〒530-8350
大阪市北区角田町8番7号
電話(06)6361-1381

連日 午前10時→午後8時（阪急メンズ大阪、レストランなど一部売り場を除く）※営業時間が変更になる場合がございます。